

特集2
副教材
活用法

授業と連動してこそ輝く 副教材！



伊藤 智

副教材を授業と家庭でどのように併用しているかを紹介します。どんなによい副教材でも、授業と家庭の両方で使わないとそのよさが発揮されないと考えるからです。

◆『グラマーノート』で文法力・表現力を！

Departure English Expression I 教科書準拠ワークブック『グラマーノート』(以下『GN』)は練習量確保のために欠かせません。「Standard」「Advanced」のパートは家庭学習用として与えています。ただし、私が肝に銘じていることの1つに「学校でやらないことは家でも絶対にやらない」というものがあり、答え合わせは授業中に行うようにしています。一方、「Expansion」のパートには、教科書で全く扱われていない項目も登場します。例えば Lesson 6 では、〈ought to〉が『GN』にだけ登場します。従って「Expansion」は家庭学習にせず、授業中に解かせ、説明も丁寧にするようにしています。

私は、生徒に入試を超えた「使える英語」を身につけるモチベーションを維持させる方策の1つとして、「身の回りの英語表現に触れさせる」ことを心がけています。『GN』にはこれらがちりばめられています。例えば「お守り」「評判の映画」のような表現です。こうした表現にも目を向けさせると、生徒たちは「へえ〜」と思いながら授業に臨んでくれます。

このように教科書と『GN』を併用すると厚みのある指導ができ、とても重宝しています。

◆生徒用と指導用の音声 CD 活用で定着

音声 CD も充実しています。指導用 CD では、

例えば、各課の冒頭にあるモデル英文について、読むスピードが変わっていたり、ポーズが入っていたりするものなど数パターンが収録されています。私はまず教科書を見ずに普通のスピードで読まれているものを2、3度聞かせ、モデル文の概要を理解させています。その後各自で本文を読ませて細部まで理解させた後、リピート用ポーズが入ったトラックを使い音声変化の説明をしながら数回音読練習をします。続いて普通のスピードで読まれているトラックを使って数回シャドーイングをさせ、最後に「四方読み」等で仕上げます。さらに家庭で生徒用 CD (ナチュラルスピードのみ) で英文を定着させることもできるでしょう。

また、各課の「Get Ready to Express Yourself」, 「Get More Informed」などの問題の解答も音声収録されています。その答え合わせは、CDの音声を流し各自でそれを聞き取る形式で行っています。リスニングの練習にもなりますし、並行して音読練習もさせることができ、生徒を休ませずにすんでいます。こうして CD を活用することで、英語表現の授業中にリーディングやリスニングのトレーニングも可能になっています。

〈追記〉『ライティング・サポート・ノート』

Departure English Expression II の準拠ワークブック『ライティング・サポート・ノート』。家庭での予習や復習、さらには入試対策にも効果的に利用できそうな構成です。こちらも「是非使ってみたい!」とわくわくしているところです。

(いとう さとし・愛知県立一宮高等学校教諭)